

全国統一要求（抜粋）

1. 全ての公共工事現場で直接工事費分の単価支払いを実現
2. 碎石、砂利、砂、合材などの骨材運搬の収入も1日4万円以上に
3. 過積載復活させるな



発行所
全日本建設交運一般労働組合
東京都新宿区百人町 4-7-2
電話 03(3360)8021
毎月25日発行
1部 50円

2018年を単価改善の年に 全ての組織が決起しよう



寒空の中でも40名が参加して元気にチラシを配布しました（1月4日埼玉県庁）

1月4日（木）、埼玉県浦和市の埼玉県庁前にて、職員の仕事始めに合わせて、埼玉南部支部・北部支部合同で「新春宣伝行動」を実施しました。

天候には恵まれましたが手がかじかむような寒い中、南部・北部で合わせて40名の仲間が参加しました。「ダンプの過積載根絶と適正単価の支払

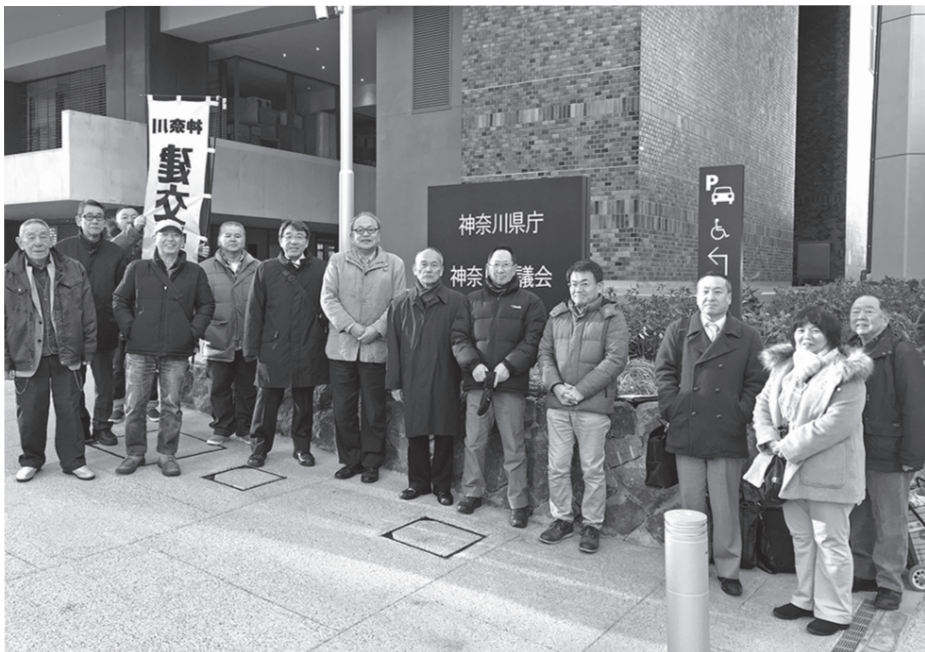
全国の仲間のみなさん、あけましておめでとうございます。今年もよろしく願います。昨年は、5月に10年ぶりとなるダンプ及び過積載問題での国会質問を実施しました。警察庁の姿勢は変化しているようですが、生コンプラントには過積載ダンプの運行が依然として続いています。

また建設業界団体の日建連は、二〇二一年末までに週休2日制を全ての現場に導入する方針を打ち出していますが、ダンプに対する単価たたきや長時間運行の改善がされなければ、意味が有りません。全国ダンプへの結集を強化し、魅力あるダンプ業界に発展させる為に頑張ります。

新春宣伝行動

新春宣伝に40名参加 ビラ一八〇〇枚を配布

埼玉北部・南部



過積載・単価たたきをなくせ、元請指導の徹底を訴えました（1月4日神奈川県庁）

設置業の末端で働くわたしたちがしっかりと声を挙げ、行動を強化し、労働者主体の業界に変えていこう」と話し、拍手で確認されました。

恒例の神奈川県庁前での新春宣伝行動に取り組みました。ダンプ支部から4名、事業団支部、神奈川労連の応援も含めて計10名が参加しました。寒風で手がかじかむ中で、県発注の建設現場で発生しているダンプの過積載問題と合わせて、元請受注者による運

制度改善 厚労省1人親方調査を実施 建退共が電子システム導入

厚生労働省は二〇一七年6月に確定した「職人建設基本計画」に記された「特別加入制度への加入促進等の徹底」にもとづいて、建設現場で働く1人親方就労者の実態把握に向けたアンケート調査を開始しました。主な調査項目として「労災保険特別加入の有無、給付基礎日額（保険料）、未加入者の理由」などです。

二〇一八年度には特別加入の周知を図り、1人親方用の安全衛生教育用テキストを作成します。勤労者退職金共済機構は、建退共制度の電子申請方式の導入に向けて二〇一八年1月から6月にかけて実証実験をおこないます。すでに建設会社20社を公募で選定しており、各社が1〜2現場で電子決済による掛け金納付や電子システムによる就労実績報告を実施します。掛け金納付などの事務負担を軽減し、従来の証紙貼付から切り替える見込みです。順調ならば二〇二一年から正式運用されます。

親父の背中を見て ダンプ乗りを決意



親子でダンプに乗って頑張っています。大竹口芳範さん（左）、父善明さん（右）

次世代の声

定量積載で8時間労働を 栃木・大竹口芳範さん

運輸・建設業界の労働者不足は深刻になる一方です。担い手の育成は、社会全体で取り組むべき課題です。

特に高齢化著しいダンプ業界の場合、若者が新規参入するには相当な覚悟が必要です。

栃木ダンプ支部の大竹口芳範さんは30歳、子どもの頃から父善明さんのダンプに同乗し「いつか自分もダンプに乗ろうと思っていたいました」。

ところが両親ともに反対。特に母親は交通事故を心配しました。千葉で酒類配送の仕事をしていた芳範さんは反対を押し切って大型の免許を取

得、栃木でダンプに乗るようになり4年目になります。

芳範さんに若者から見たダンプ業界の問題を率直に語っていただきました。

「最大の問題は過積載と長時間労働です。パトカーとすれ違うだけで緊張する仕事なんてみんな敬遠します。同世代でダンプに乗っている人はほとんどいないですよ。以前より収入は増えたけど、時間に換算するとけっしていい仕事とは言えません。親父の世代はダンプで長時間労働なんて当たり前だろうけど、俺たちの世代はそれじゃやる人い

ません。いま碎石工場に製品がないから積み込み待機でさらに拘束時間が長くなっているでしょ。こんな状態じゃとてもやる人いません。自分の時間がないのです」。

「どこに行っても一番若いので、みなさん親切にしてくれます。親父が苦労して実績をつくったからだと思っています。だから親父に恥をかかすことのないように頑張りたいです」と話します。

首都圏の生コン価格は、骨材ダンプの過積載と長時間労働によってつくられています。この問題にメスを入れて、単



使用促進闘争でさらに奮闘し、拡大を全力で取り組みます。（12月10日福島県郡山市内）

価水準を上げない限り担い手の育成は不可能です。骨材ダンプの場合、打開策は国土交通省ではなく警察庁が握っています。定量積載で、8時間働いて生活できる業界の実現に向けて、私たちの労働組合の責任は重大です。

使用促進闘争の学習会実施 拡大を全力で取り組もう

12月10日（日）、福島ダンプ第32回定期大会が開催されました。県内外から、36名の代議員（代議員総数45）が集まりました。

来賓として、日本共産党参議院議員の岩渕友さんからあいさつをいただき、今の政治の情勢など真剣に聞きました。

大会では使用促進闘争の学習会を取り入れ、森谷部会長を講師に資料を説明しながら、学習しました。参加した仲間も真剣に学習し、使用促進闘争の趣旨を深く学ぶことができた。組合の役割を再認識しました。

来年度も、分会会議の定例化に力を入れて、要求闘争を前進させ組織拡大に全力で取り組みたいことを誓い合いました。

役員体制
執行委員長 永井 正彦
副執行委員長 森谷 稔
書記長 刈柳 勝彦
**要求闘争を必ず前進させ
強大な支部建設をめざす**
東海ダンプ

東海ダンプ支部は、1月6日（土）～7日（日）にかけて愛知県西尾市で東海ダンプ支部第2回定期大会と新春交流集会を開催しました。

正月と連休という期間でしたが、20人の仲間と来賓として国土交通労働組合東海建設支部青山副委員長も参加され、



要求闘争の成果を活かし、組合員拡大で奮闘します。（1月6日愛知県西尾市内）

総勢21人で大会と交流集会を成功させました。

大会では、三浦・青山両名の議長団の進行で行われ、野川支部執行委員長のあいさつでは、「昨年1月から東海ダンプ支部として活動を展開し、ダンプキャリアバンや使用促進闘争などにより、東海ダンプ支部を発注者や元請・下請など業界に認知させ、白ナンバーや背番号問題をはじめとするダンプの基礎知識の徹底や単価・労働条件改善の取り組みを前進させてきたことを力にして、今後もみんなの要求を確実に実るよう前進させることと結びつけて、組織拡大も前進させよう」とあいさつがなされました。

高橋書記長の議案提案の後、質疑討論では全員が自己紹介も含めて発言し、一人親方やサラリーマン運転手の様々な

悩みを要求にして、組合で要求実現ができることをアピールして拡大を進めていきたいとの決意を述べた仲間もあり、議案を補強する発言が相次ぎました。

議案は満場一致で可決成立し、新年度の役員選挙も行われ、立候補者が全員信任されました。

東海ダンプ支部は、大会後、具体的な闘争・運動の戦術を愛知・静岡の各県協議会幹事会で論議し、執行していく方針です。

大会の前日に行われた新春交流集会は、普段会えない愛知・静岡の仲間が仕事の話など大いに盛り上がり、交流を深め、絆を強固にしました。

役員体制
執行委員長 野川 正一
副委員長 荒木 利彦
書記長 高橋 立顯